
宇和島市教育委員会会議録

平成 29 年 12 月定例会

平成 29 年 12 月 15 日開催

宇和島市教育委員会

宇和島市教育委員会 平成 29 年 12 月定例会 会議録

1. 開会日時 平成 29 年 12 月 15 日 (金) 15 時 58 分～

2. 場 所 宇和島市役所本庁 701 会議室

3. 出席者 教育長 織田 吉和 委員 高山 俊治 委員 廣瀬 孝子
委員 木下 充卓 委員 弓削 由美子

4. 欠席者 なし

5. 会議に出席した公務員の職氏名

教育部長	常盤 修二		
教育総務課長兼学校給食センター所長	横山 泰司		
学校教育課長	野田 克己	生涯学習課長	寺尾 利弘
中央図書館長	渡辺 晃	人権啓発課長	山本 利彦
文化・スポーツ課長	宮本 清司	伊達博物館長	土居 道德
吉田教育係係長	田中 英之	津島教育係係長	日出山 輝
(事務局)			
教育総務課課長補佐兼総務係長	土居 弘		
教育総務課主任	崎山 泰慶		

6. 付議事件

報告第 2 3 号 専決処分した事件の承認について
平成 2 9 年度教育費 1 2 月補正予算の要求について
報告第 2 4 号 専決処分した事件の承認について
宇和島市立公民館運営審議会委員の解嘱について

7. 会議概要

(1) 開会宣言 (午後 3 時 58 分)

◎教育長

みなさんこんにちは。ただいまから教育委員会 12 月定例会を始めたいと思います。会議に先立ちまして一言あいさつをさせていただけたらと思います。今日の午前中に私たち含めて学校教育課の 4 名の指導主事が、県の教育委員会の 3 名の指導主事さんと南予教育事務所の 2 名の指導主事さんに来ていただいて、学力についての連絡会という形ではあったのですが、平たく言いますと宇和島市の子どもたちの学力の状況を踏まえ、子どもたちのために私たちはどういうふう

導したらいいのか、また学校現場でどういうふうに働きかけていったらいいのかという課題のもとに一時間ほど話し合いをしました。ということが確認されたかといいますと、まず県の指導主事さんからは、テストを受けている児童生徒の欠席が少ないということは、子どもたちが積極的に不登校も少なく学校に登校している実態があるということ、一方で無回答の数が多いことは問題解決へ向けての手立てが分からなかったり、そこから時間いっぱい考えて苦しんでいる児童生徒の様子が見えてくる、ということは学校に来て勉強しよう、分かれよう、分かれたいという気持ちがあるにも関わらずテストを通してなかなか理解できていないというところが見えてくるのだということを言われていました。ここは1つ考えていかなければいけないことだと思います。そして今年、愛媛県は小学校が全国4位、中学校が5位という結果だったのですけれども、県内の6年生、中学3年生が頑張った結果だと捉えられるし、県内20市町で公表していないところもあります。県内20市町をみて宇和島市の中学生は低いということになります。捉えようによっては皆が頑張った結果なのだからということも言ってもらいました。野田課長が市内の教職員が一生懸命取り組んでいるけれどなかなか結果が出ない、結果が出ないとなかなか教師のモチベーションも上がってこないのだけれども何か手立てはないでしょうかという問いかけに対しては、問題点も含め全体で見えていくとなかなか成果が上がってこないかもしれないけれども、このあたりであればできるのではないかとこのところにある程度絞って、その結果、数字として上がってきたというところが見えてくれば、子どもたちも現場の先生方もやりがいやモチベーションも上がってくるのではないかとこの指導もいただきました。また、宇和島市の全体的な地域性に絡めてお話しをしてみますと、松山では学校が、あるいは松山市の教育委員会が特別大きな働きかけをしなくても、親が伝統高校や有名進学校へ向けての競争力があるので、そういう部分では教育委員会としてもということはないと、宇和島ではそれがなければやはり学校が中心になって児童生徒に、あるいは保護者に働きかけていかなければいけないのではないかとこの指摘もいただきました。最後に1つだけですけれども、教育委員さん方も学校訪問がほぼ終わりましたけれども、授業を見ていく時にこのようところが大事だという指摘があったので紹介します。学力テストも全国学力学習状況調査もテストだけではなく、子どもたちがどういうふうに捉えているかという報告があります。その中で2年生までに受けた授業で生徒の間で話し合う活動をよく行っていたのか、また学級やグループで課題をたてて、その解決に向けて情報を集めたり、あるいは話し合いながら整理して発表するという学級での学習活動に取り組んでいたのかということに対する生徒が答えた評価としては、県の平均よりも15%くらい低かったです。そういう意味で私たち教育委員会ではこれまで以上に学校の先生方に授業の展開として、生徒が前面にでれるもの、以前の学校の在り方のように先生がぐいぐい一方的に引っ張るような授業ではいけないのだということが生徒の声としても数字として表れていましたのでこのようなことに気を付けながら、また教育委員さん方にも学校での授業の様子とか訪問した時の子どもたちの活動の様子を見ていただけたらいいなと思いお話ししました。以上です。あとは座って教育長報告に移らせていただければと思います。

(2) 教育長報告

◎教育長

それでは続きまして、教育長報告に移ります。資料の1ページ、2ページをご覧ください。

11月の報告でございます。11月2日に吉田高校創立100周年記念の式典がありました。この式典には山下亀三郎さんのお孫さんが東京から駆けつけていただいております。

3日、コスモスホール三間で夏井いつき句会ライブがありまして、控室にあいさつに行ったのですがすけれども、私も同じ小学校中学校で5つ後輩なのですが覚えてくれていて良かったなと思えました。

5日、松山でえひめ教育の日の推進大会があり、これも10周年ということで出席しました。

7日、ひめぎんホールで県人権・同和教育研究大会があり、吉田の宝本志保さん、遠見子ども会に関わっていただいている彼女が堂々と自分の体験等を真摯に語ってくれていた様子が私だけではなく参加された方や県の関係者の方にも高く評価していただきました。先日も出雲のほうで全国大会があって、そこでも発表され、これも高い評価をいただいたということで大変嬉しく思いました。また参加した市の人権に関する方々も課長筆頭に赤いジャンパーの差別解消法で取り組んでいることを大変アピールされておりました。また段の上に4、50の方が上がられてアピールしている様子も良い評価をいただいております。

9日、教育委員の皆様にも参加していただきましたが、松山・子規記念博物館で四国地区の市町村教育委員会協議会がありました。

14日、市長との学校再編についての協議を行いました。またここで書いてあるとおり、坂本中体連会長との協議というのは、教育長室で中学校市内6校の先を見通した部活動の在り方について、大変生徒が減っている中でどういう形で配分したりするのかという1つの基準を作ることによってという意味で課長を交えて協議したりしました。

17日、なにかの機会に話したかもしれませんが城川町の遊子川公民館に行き、主事さんからいろいろ話を聞かせてもらいました。

20日、とても残念でしたけれども文教地区5校1園、明倫幼稚園から明倫小学校、鶴島小学校、城南、南中、宇和島東高校、5校1園で合同地震津波避難訓練を予定しておりましたが、残念ながら雨天で延期となりました。

21日、22日には市教研という3年間取組んだ結果の本発表の会で、それぞれ三間中と城南中を見させていただきましたが、先ほどあいさつで触れましたけれども、どうしても若い先生が授業を公開するという立場であったこともあるのかもしれませんが、私の印象ですが教師主導の授業が展開されていて、良いほうに言えば生徒が興味をひくような課題を示しながら、子どもたち、生徒も楽しそうに授業をしていたことは評価できますけれども、その辺も1つ取り組みとしては工夫がいるのかなと思った三間中、城南中でした。

27日、その他のところで課長のほうから詳しい話があるかもしれませんが、校務支援システムについてのプロポーザルが2時間半程度ありました。

28日、教育委員会の11月定例会と第2回というか、新市長になって初めての総合教育会議が行

われまして委員の皆さんも出席いただきましたけれども、中身については省略しますがこういう会がありました。

以上で11月分の教育長報告を終わりたいと思いますが、何かご質問ご意見がありましたらよろしくお願ひいたします。

— 委員からは特に意見なし。 —

(3) 付議事件

◎教育長

次に議事に入ります。本日の議案ですが、報告第23号の12月補正予算については予算が公表されていないことから、報告第24号は人事案件であることから非公開で審議したいと思いますが、異議はありませんか。

◎全員

異議なし。

◎教育長

異議がないようですので、非公開で審議します。

それでは、ここからは非公開案件の審議に入ります。

◎教育長

報告第23号を上程する。

報告第23号

専決処分した事件の承認について

平成29年度教育費12月補正予算の要求について

◎教育長

説明を求める。

○教育総務課長兼学校給食センター所長、文化・スポーツ課長、人権啓発課長

平成29年度教育費12月補正予算に関する報告事件を説明する。

◎教育長

報告事件について諮る。

◎全委員

異議ない旨答える。

◎教育長

報告のとおり承認する旨宣する。

◎教育長

報告第24号を上程する。

報告第24号

宇和島市立公民館運営審議会委員の解嘱について

◎教育長

説明を求める。

○生涯学習課長

宇和島市立公民館運営審議会委員の解嘱に関する報告事件を説明する。

◎教育長

報告事件について諮る。

◎全委員

異議ない旨答える。

◎教育長

報告のとおり承認する旨宣する。

◎教育長

それでは、非公開案件の審議が終了したので、会議を公開します。

以上で、本日予定の議事はすべて終了しました。

(4)その他

◎教育長

他に意見などありませんか。

◎木下委員

吉田小学校のことですが、インフルエンザで休む子がいると聞いたのですが、市内の学校でまだ学校閉鎖とか、宇和島市内でインフルエンザが流行っているようですが、子どもたちの状況はいかがでしょうか。

○学校教育課長

教育長。今、インフルエンザで学級閉鎖になっているのは吉田小学校の3年生だけで水、木、金の3日間だけです。学校ごとには少しずつですが、校区でいうと吉田地区と三間地区に患者が多いかなという概略の状況です。

○伊達博物館長

教育長。12月に入りまして寒さのせいか入場者も少ないのですが、伊達博物館のホームページをみて、どのような催し物をしているのか見ていただきたいと思います。ブログもあります。伊達博通信もあり、日々の出来事なども載せていますので、また見ていただきたいと思います。それを周知していただいたらありがたいと思います。4月からブログのほうは120回くらいは更新していますので、2日に一度の割合でアップしていますのでご覧下さい。よろしく願いいたします。

○教育総務課長兼学校給食センター所長

教育長。前回は説明させていただきましたが、校務支援システムの導入に関しましての目的と概要については説明して、先ほど教育長からのお話もありましたが、先月27日のプロポーザルの資料を配っていますが(株)デンケンさんと12月1日付けで契約を締結して、来年の4月から可能な限り運用できるように学校教育課さんを中心に学校現場と共同事務室とで打ち合わせを進めていただいております。ここに決めた経緯について簡単に説明させていただきます。お手元に委員

さんと皆さんに配った資料は若干違いますが中身はほとんど同じです、プレゼンテーションをした時のデンケンさんが作った資料をお配りしております。まず資料の表紙を開けていただき、まず、「はじめに」というところで、まず校務支援システムを導入する目的としましては業務を効率化して子どもたちと向き合う時間を確保しましょうという目的があって校務支援システムを入れるということは、デンケンさんもその趣旨にそったソフトを開発しましたというようなことを書いております。4ページ をご覧下さい。提案社は合計3社ありましたが、純粋な地元の業者はデンケンさんだけです。デンケンさんは実際に校務支援システムを自社開発して愛南町に数年前から入れております。自社開発した経緯は、学校現場に合った、校務に合ったシステムを手作りで作ったので、先生方が本当に必要な機能をシステム化したもので、愛媛県の様式であったりとかを全国版ではどうしても全国的なものとなり、愛媛県に特化したシステムを作りましたという提案をいただきました。なおかつ、そこに絵が書いてありますが、教育委員会教職員だけではなく事務関係のシステムもこの中に入っております、具体的に言いますと給食管理システムであったりとか 徴収金管理システムといったものもありますということで、これは他の提案社にないシステムでございました。続いて7ページをご覧ください。いろいろな機能が校務支援システムにはありますが、特に赤字の部分が他社にはないデンケンさんの特別な仕様でございます。先ほども言いましたように、先生方だけが使うのではなく、事務方も使えるということで出張の申請や休暇申請等もシステムでできるようになり、他にはないシステムでございました。児童生徒の個別の指導計画もでき、指導要録については見え消しもでき、電子承認、電子決裁もできます。これによりかなり効率化に繋がり効果があると思っています。保健管理で私が一番いいと思ったのは、その下の給食管理と連動しているのですが、病気アレルギーについての情報を下の給食管理とリンクをさせて、食物アレルギーがある子で今日の献立で、こんな物があつたら、この子は注意すべきですというものが出せるということと、もう1つはそのさらに下の徴収金システムと連動をさせて、給食管理システム、いわゆる給食費の徴収金をその他の教材費等の校納金と併せて、徴収金をシステム化することによって、今まで手作業でいろいろやっていたことが、かなりシステムチックにできて、それが全銀フォーマットといって、銀行との通信で引き落としのデータを送ることができるというところで、今の作業より効率が上がると思います。続いて、11ページ、先ほど言いました電子承認の絵が、具体的な絵をつけて出してあります。今まではペーパーで出していたものを、教務主任、教頭、校長と手で判を押していた物を、システム上でそれをするということで、今誰がどこまでの承認を得ているかが一目瞭然で、かなり効率的にそれができるのではないかと私自身は考えております。続いて、13ページ、先ほど少し説明しましたが、保健管理システムで、病気のアレルギー等について、この子は牛乳が飲めない、エピペンを持っている等という情報が保健管理システムで一人ずつ管理ができます。その次のページ、14ページに、その情報が給食管理システムのトップページなのですが、右の上のほうに1年1組なんとか君が、今日はアレルギーに対応した児童の名前が、そこでポップアップで出てきて、この子は今日アレルギーで食べられない物がありますというのが出てきて、例えば、今までは紙ベースで献立表とは別にアレルギー物質表というものを各家庭に給食センターが発行して配っていて、

各家庭で今日はこれが入るから食べたらいけないという指導をしていて、先生方もその情報は持っているのですが、その情報をみんなでシステムで共有することによって、誤食や誤飲を防ぐことが確実にできるというところの説明もいいなと思って聞いておりました。続いて、15 ページが徴収金システムというところで、先ほど言いました校納金と給食費も含めて、これが銀行の通信とリンクするような形で、全員が銀行引き落としできてない家庭もあるように聞いておりますが、かなりシステムの効率化されるのではないかと考えております。18 ページ、システムは入れたけれども、まず先生方はやはり今までのやり方に慣れているので、ここが一番大事になるのが研修です。この研修がまずシステムを導入する前に、教育委員会管理職研修、一般教員の研修、養護教員の研修の集合研修をするだけではなく、小学校 28 校、中学校 6 校、合計 34 校全部を回りますという提案をいただきました。それをして導入し、新年度に入っても例えば学級編成や学籍異動があるので、新年度に入っても 34 校すべてに回ります。6 月から 7 月にかけては成績を入れるところなので、そこについての研修も行います。年度末については、進級であったり、進学等の操作が必要になるので、その時もその時に応じた研修を行います。その 1 番下にご要望があれば個別の研修も行いますという地元ならではのきめ細かな研修をしますという提案でしたので、これもいいなと私自身は考えております。その次のページがアフターサービスについてなのですが、宇和島の地元の自社開発の製品だということで、私自身は技術的にどうなのだろうと多少疑問があったのですが、うちの企画情報の担当の係長もしっかりしているということで、その辺り問題はないだろうということです。アフターフォローについても今まででしたら販売店さん通じてメーカーさんだと電話対応が主になるのですが、デンケンさんは駆けつけて現地対応しますというのもポイントが高かったと私自身は思いました。22 ページ、これも良かったのですが、入れたら入れただけで使わないと意味がないので、システムは使ってもらってなんぼというところで、システムの作動状況の問題を課題整理するために、定期的な定例会を開き、そこで出てきたものについてはカスタマイズできるものについてはカスタマイズします。これにも多少値段がかかるものなので、すべてがすべてお金のかからないところの範囲は多少制限はあるだろうと思うのですが、使ってもらえるようにデンケンは最大限努力しますということで、これもいいなと思います。以上総合的な評価で、一番最後に、皆さんにお配りしたものには付けていませんが、先ほど言いましたように 3 社あって、審査員は教育長を審査委員長として、合計 10 名、その内訳は先生方が約半分以上を占めるのですが、総合計点で一番高かったデンケンを 1 億 4,990 万 4 千円、1 億 5 千万の残り 9,600 円しかありませんでしたが、価格競争ではないので、いかにこの価格内で一番いい提案をしてもらえるかを選んだ結果デンケンに決まったというところがございます。デンケンに決定した経緯について説明は以上です。

◎教育長

今の説明について何かご意見ご質問はありませんか。

○教育総務課長兼学校給食センター所長

教育長。研修等、最初は今まで先生方慣れてない操作なので、その辺が少し心配なのですが、使い出したらかなり業務効率の改善には寄与すると思いますので、学校教育課と連携して、せつ

かく入れた物をできるだけ有効活用して、なおかつ先生方も使い勝手のいいような形にカスタマイズできることはしていきたいと思っております。

◎教育長

その後の様子を見ますと、教育総務課のほうで中山指導係長を交えて、頻繁に今後に向けて確認をしているのが見て取れて、その辺ぜひ、早ければ、先に課長から話にありましたが、新年度のスタートに間に合えばいいなと思います。

その他いかがでしょうか。ご意見はありませんか。

— 特に意見なし。 —

◎教育長

それでは次回の日程について。

— 協議のうえ、教育委員会1月定例会を1月23日に開催することを決定する。 —

(5)閉会宣言（午後4時42分）

◎教育長

それでは以上をもちまして、教育委員会12月定例会を閉会いたします。